

『思い思いの若者たち』



## <「こもりびと」って何だ>

事務局長 布袋 太三

本誌を読んでくれている人なら、昨秋の NHK スペシャル「こもりびと」や一連のひきこもりをテーマにした番組に興味深く観たことと思う。

私はこうして NHK が時々思いついたように、ひきこもりに接近した番組を流すが、そのタイミングやコンセプトに少しの違和感をずっと以前から感じていた。

その違和感の正体は自分でもよくわからないが、番組を作る人が何か「的」を意識的にやらずらして作っているような感じに思えてしまうのだ。

確かに中身は興味深く構成され、映像としてもきれいな切り取りで、観る人に押し付けることなくひきこもりについて考えさせてくれる。

しかし、何か私にとっては違う。

まず「こもりびと」というネーミングに私はどうしてこんな表現を採用したんだろうと思った。あえて「ひきこもり」でなく「こもりびと」とした狙いは何か。漢字をあてると「籠り人」か、それとも「隠り人」か。作者は何らかの漢字イメージから類推して「こもりびと」に辿りついたのだろう。どちらにしてもひきこもり当事者を表すには何かが違うような気がしている。ひきこもりは「籠ったり」「隠ったり」しているだけではない。

この少々の違和感は私だけだろうか。

さて、番組では当事者にこんな発言をさせている。「同調圧力に抗しきれなかった」「親の期待に応えられなかった」「正社員にもなれない」等々。

いずれもどういう意味で語っているのか不明だ

が、だからどうなんだと反問するとどんな言葉が返ってくるだろうか。

たとえば、同調圧力になるものに抗しきれなかった自分をどう思っているのか。情けないか惨めだとか否定的に総括しているのか、それならそれに抗する思弁と行動力をどう身に付けようとしているのが鍵となるが。

また、親の期待に応えられなかったからどうなんだ。そもそも君は親の期待に応えなかったのか。あるいはそうあらねばならないと考えていたのか。まずその思春期以前の姿勢から決別しないと、せっかくひきこもってまで哲学している君の値打ちが台無しになる。

私は NHK はまさかこんな特番でひきこもり当事者の思いを深掘りしているつもりになっていないと思うが。まあ、続編を待とう。

多くのひきこもり者はもっともっと深いところで言葉にならぬ言葉で自分自身と世情を撃ちつづけているのだ。だから私たちは軽はずみに彼らを世に晒すことは許されない。



## あづまプラッツ 2020年の歩み

相談支援員 和田 麻衣

いつも当所の活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。2021年も皆さまにとり、実り多き年となりますようお祈り申し上げます。さて、昨年 2020 年は、まさに新型コロナ一色の年でした。

当所も、地域や県、全国の感染状況等を踏まえ、数多くのイベント中止を余儀なくされた 1 年でした。そんな息苦しい中でも、感染予防対策を講じながら、様々な活動を行ってきましたので、簡単ですが、そのご報告をさせていただきます。

2020 年は、利用登録された 14 名（年度で変動あり）はじめ、常時 10 名弱ほどの見学・体験の方々と、居場所の提供、各種イベントの実施、ご本人や親御さんとの生活相談等の支援で関わらせていただき、延べ 370 件以上のご利用をいただきました。

当所のイベントでは、レザークラフト教室、スポーツ（バレーボール、バドミントン、バッティングセンター、ボウリングなど）、調理実習、宇久井ビジターセンターでのサツマイモの植付～収穫作業などを行いました。

当初、小さなキーホルダーから始まったレザークラフトでは、バッグ類を製作するまでなり、複数の利用者さんが、



秋には小さな展示会に参加するほどの腕前になりました。サツマイモ植付～収穫作業では、本格的な畝の前に、慣れない作業に悪戦苦闘しつつも、定期的にお手入れにも通い、秋には立派なサツマイモを沢山収穫できました。このサツマイモで、スイートポテトを作り、みんなで美味しくいただきました。

また、メイク講座、就活セミナー、家ではたらくカレッジ「集いの場」（テレワーク講習）、イラストレーションソフト活用講座など、外部イベントにも多くの利用者さんが積極的に参加し、その引き出しをどんどん増やしていきました。

イベントの無い日は、居場所でのおしゃべりや書道、塗り絵、ゲーム、卓球、菜園作業、利用者さん自作の謎解き（クイズ）や楽器の演奏など、スタッフと共に、それぞれが興味のあることをして過ごしました。特に、1 月に導入した電子ピアノは好評で、一緒にギターや歌も楽しみました。

また、自治体の議員や職員、福祉団体、公立大学関係者などの視察や施設見学などもあり、いろいろなお質問やご意見をいただきました。ひきこもりサポート事業への皆さまの関心の高さと、事業の重要性、責任の重さを改めて実感いたしました。当所での活動は、法人の HP（heart-tree.org）掲載の会報「プラッツ通信」やインスタグラムでも随時公開しておりますので、ぜひそちらもご覧ください！

2021 年も、あづまプラッツでは、様々な支援のメニューを用意し、更なる活動の充実を目指します。今後とも皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

